



隠岐産杉材の木造架構 大庇

集魚灯型街灯

帆船の絵タイル

グリーンタフの歩道舗装

隠岐片麻岩のラインや模様

海に向かう風待ち通り

## みなとまちの記憶を継承し、豊かに住む

### —低層高密度「集落型」再生—

風待ち港として賑わった歴史を持つ中心市街地が、車社会の到来とともに次第に寂れてきました。「まちの玄関口に広い歩行者優先ゾーンを作り出す」という計画は、車社会以前の「歩いて暮らすことの豊かさ」を復活させることを意味します。

多くのみなとまちがそうであるように、このまちは「人間的尺度」による密度の高い空間によってつくられています。そして、天然の良港として栄えた歴史—まちの記憶—があちこちに懐かしに残っています。

このような豊かな歴史性を丁寧に掘り起こし、現代的に回復する「低層高密度集落型整備」を提案します。

#### ■中庭と路地

国道両側の二つの街区に、建物に囲まれ居心地の良い中庭を配置します。子供たちの遊び場であり、イベントや祭りの開かれる空間です。

まちには「小路（こうじ・しょうじ）」と呼ばれ海に向かう親密な路地空間が多く残っています。このような路地空間の復活を図り、中庭や表通りと結びます。

#### ■職住近接

店の奥や2階に住まいを持つ、という伝統的な町家型建築により「多世代居住のまち、いつも人の気配のあるまち」を目指します。

#### ■まちなか居住者の増加

プライバシーを確保しながら光や風などの自然を取り入れ、性能の良い快適な高密度住宅地とすることによって、地区の人口増加を図ります。

#### ■柔軟性ある計画

分棟形式の開発はこれまでの権利関係の継続が可能であり、地権者の多様なニーズに応えられます。また、計画の変更や修正に柔軟に対応することができます。



### ゾーニング（機能配置計画）

#### ■交通

国道 485 号は歩行者専用路、臨港道路は南進の一方通行路とします。街区を囲む町道は幅員 6m を確保し、街区内の町道は廃止を原則とします。バス停とタクシー乗り場は、一方通行路の広い歩道を生かしまち側に移動します。

#### ■交流

交流の中心施設となる「交流ホール」を西郷湾や大山の眺望が得られ視界の開ける位置に配置します。中庭や路地、公園通りなどの外部空間は全て交流空間です。

#### ■店舗と住居

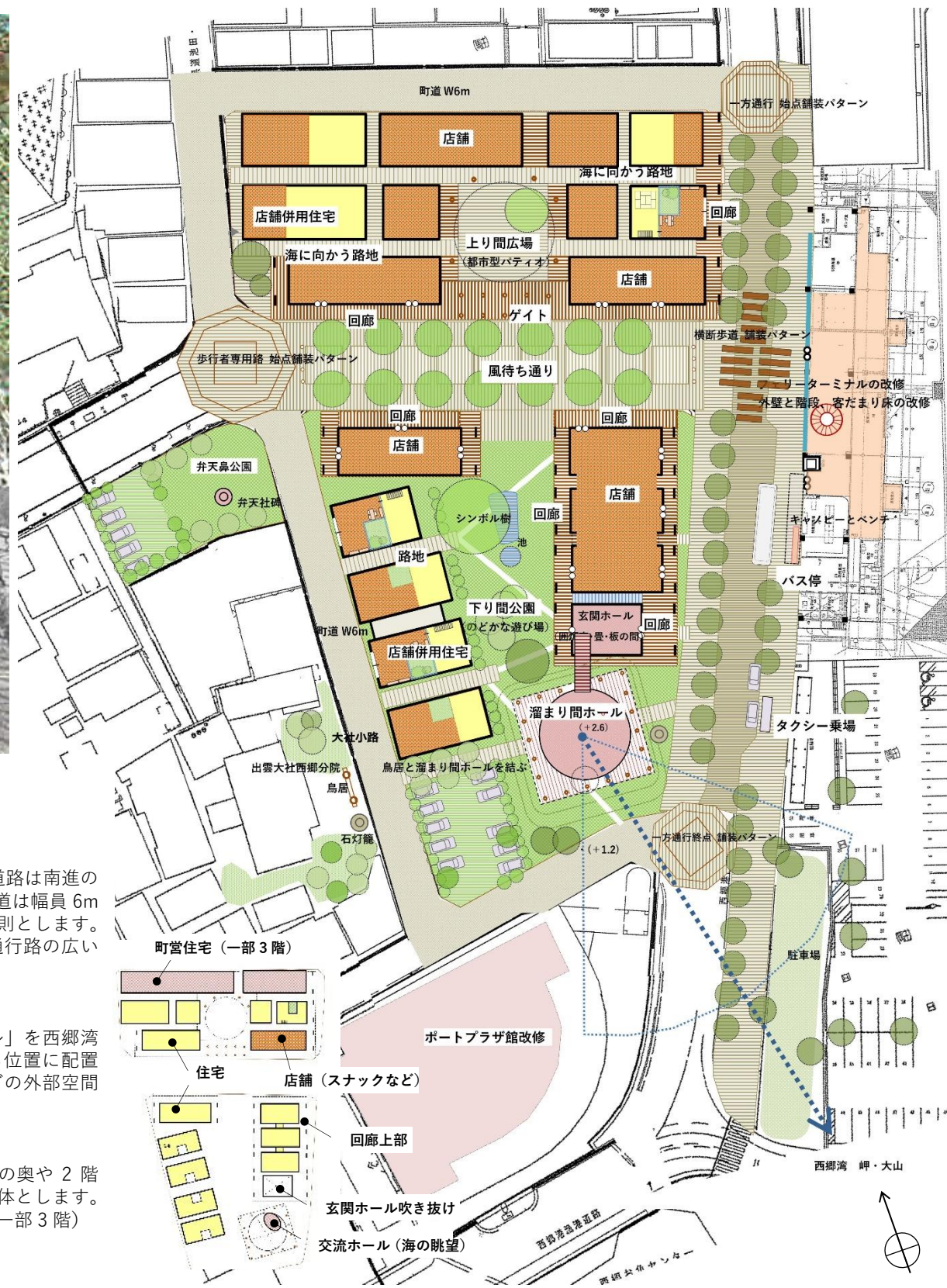
表通り沿いに商業空間を配置し、店の奥や2階に住居を持つ「住宅併用店舗」を主体とします。（2階建てとし、敷地北側1列のみ一部3階）

#### ■周辺施設との連携

- フェリーターミナル  
西側ファサードはまち側から海や船が見えるよう外壁や階段を改修します。客だまりはまち側の屋外舗装と連携する床舗装とします。
- ポートプラザ館  
町役場分室など公共的利用とします。再開発にかかる住民相談室を常設し、長期にわたる計画に対応します。災害時は周辺住民の一時避難場所として利用します。
- ブリッジ  
海への開放感を得るため撤去します。
- 江戸後期の弁天社跡地  
風待ち通りの入り口にあり、「弁天社碑」を整備し、「弁天鼻公園」として保全します。

#### ■駐車場

4か所の駐車場は現況通りとします。整備エリア内の居住者用に、最小限の駐車場を確保します。



2階デザイン図

1階デザイン図



海に向かう路地



中庭 (上り間広場) のフリーマーケット



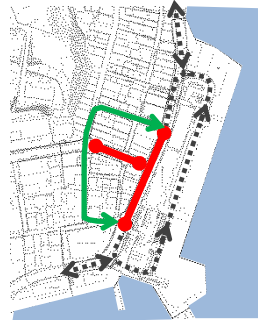
## 交通 (安全に楽しく歩けるまち)

### ■国道 485 号と臨港道路の歩行者優先道路

3案の比較検討を行い、B案を採用します。

#### △ A案

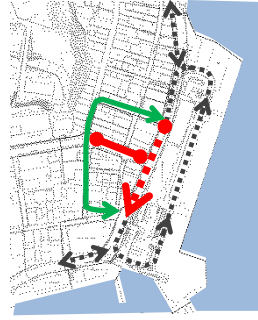
国道・臨港道路とも歩行者専用道とする。街区を囲む町道は幅員 6m を確保。



街区を囲む町道の負担が過大となる割には臨港道路の交通量は多くはない。臨港道路の横断者が多いのは船の発着時のみ。

#### ○ B案

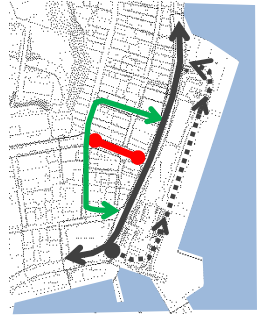
国道は歩行者専用道路、臨港道路は南進の一方通行路。街区を囲む町道は幅員 6m を確保。



臨港道路の横断者は南進車のみ注意すればよいので横断しやすい。歩道幅員が広くとれ、タクシーベイやバスベイなど設置しやすい。

#### ○ C案

国道は歩行者専用、臨港道路は両方向通行。街区を囲む町道は幅員 6m を確保。



臨港道路の交通量は少ない。道路横断者が多いのは船の発着時のみであり、横断歩道前後の注意喚起策の工夫で安全性を確保する。

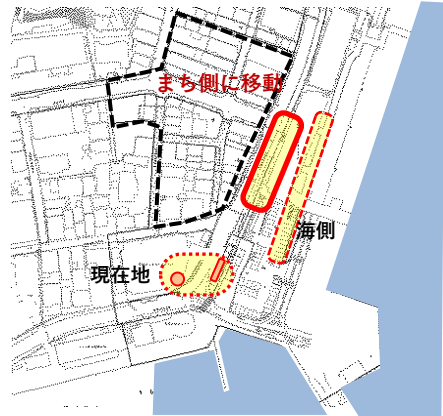
B案は北進利用者にやや戸惑いが起こる可能性があります。B・C 両案の交通実験を一定期間行ない、採用案を確定することを提案します。

### ■タクシーやバス乗り場

現在地はフェリー上屋から遠く不便です。一方通行路の広い歩道を生かし、まち側のターミナル出入口付近に移動します。

### ■一般送迎車

表通りの交通交雑を避けて、現況通り海側とします。



バス停とタクシー乗り場

## 交流 (敷地全体が交流空間)

### ■屋外空間の連携

屋外空間のネットワークにより敷地全体が交流空間。北前船にちなんだ呼称をつけます。

- 上り間広場一店舗に囲まれた都市的石畳舗装パティオ空間。産直市やコンサートの開催。
- 下り間公園一のびのびした広がりのある公園。子どもの遊び場。植栽や遊具、海水も入る小さな池などの設置。
- 風待ち通り一祭りやイベントの起終点となる町を代表する表通りです。
- 底下の空間一雨や直射日光から守られた快適な半屋外空間を各所に用意します。

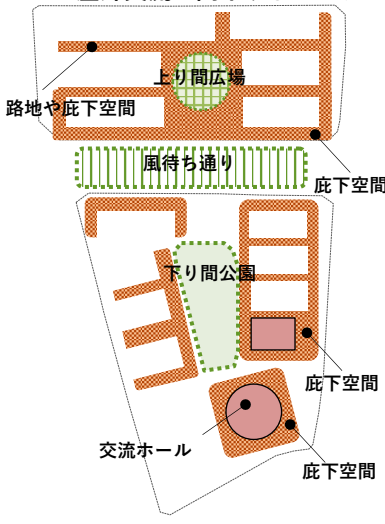
### ■交流ホール(たまり間ホール)

西郷湾や大山の眺望を得やすくするため、床面は前面道路より 1.5m程度高くします。玄関ホールはくつろいだ雰囲気重視し、古民家の移築や囲炉裏の設置など工夫します。ホールは透明感のある空間です。

### ■利用者

来島者は、フェリー出港までの時間をゆっくり過ごします。パソコンに向かう、ぼんやり海を眺める、お茶する・・・など。住民は食事やお茶をしながら親密な時間を過ごします。本屋さんとも提携し、子供たちのたまり場になります。碁や将棋などをする人達もいます。

### 屋外交流空間ネットワーク



半屋外の底下は快適空間

## 暮らし (豊かに住む)

### ■新規居住者の呼び込み

中町や西町など中心部は空き家が増加し、居住人口が減少しています。市街地中心部のターミナル隣接地という立地条件を生かし、都市的生活と田舎の自然を求める居住者を島内外から呼び込みます。

### ■多様な住居ユニット

2・3階の低層住宅は、高密度でもプライバシーを守った住みやすい多様な住宅が可能です。  
 ・光庭や天窗活用のコートハウス  
 ・フラットタイプやメゾネットタイプ  
 ・外断熱通気工法の置き型屋根や板張り外壁など性能の良いユニットとします。

## 商業 (昼も夜も人の気配)

### ■町家型建築

店舗の奥や2階に住む町家型建築とし、いつもヒトの気配を感じられるまちをめざします。

### ■回廊型ファサード

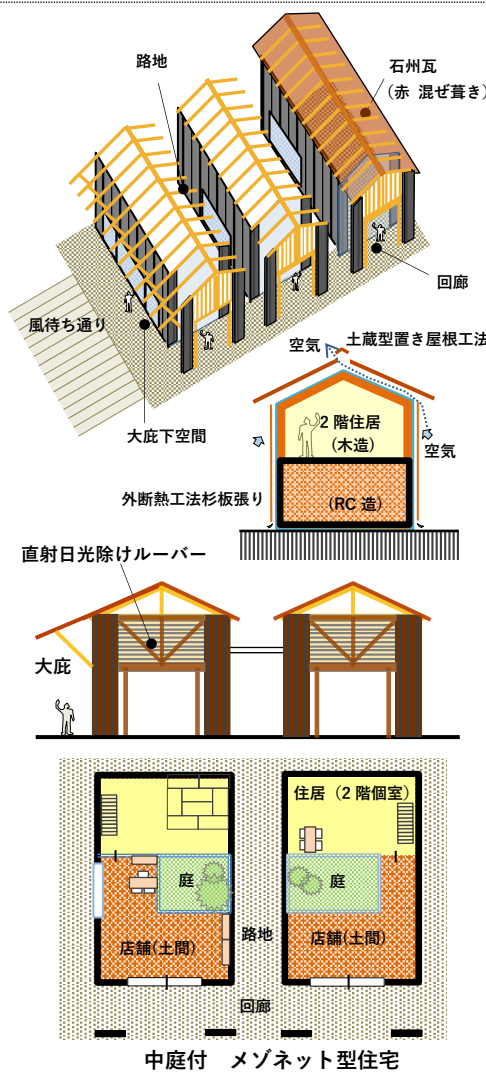
雨や雪、直射日光を防ぐ回廊は、店舗群を代表する印象深いファサードを作ります。

### ■合理的な構造

木造主体ですが、遮音性に配慮し「1階RC造・2階木造の混構造」など合理的な構造を追求します。

### ■店舗群の共通コンセプト

郊外型スーパーマーケットとは異なり、「生活を楽しむ」という共通コンセプトを持つ店舗群の形成を図ります。



## 運営・利活用・賑わい (住民参加)

### ■住民参加

これまで積み重ねてきたワークショップなど住民参加のまちづくり活動を、今後も設計から運営に至るまで継続します。参加者には新規出店者や新規居住者、企画運営のサポーターとなる・・・などの可能性もあります。

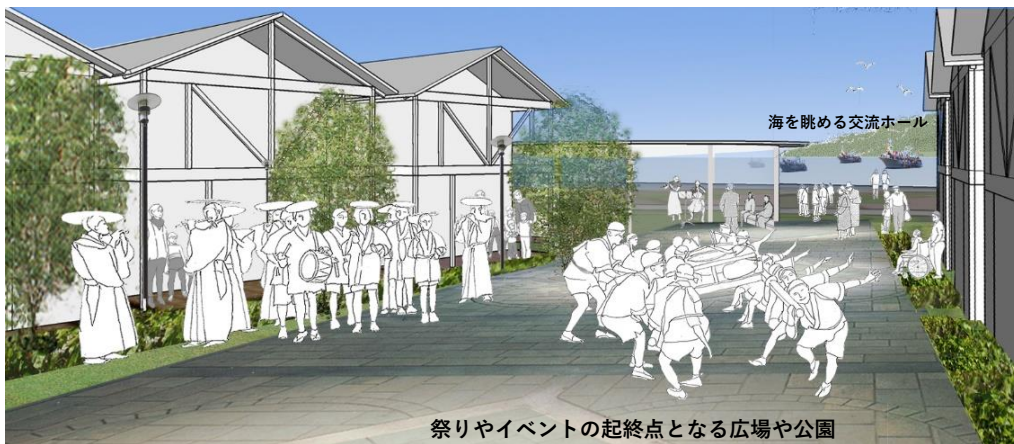
### ■全国公募

地権者意見のとりまとめや新しい店舗群の販売促進活動など、チームを引っ張るリーダーを広く全国公募し、強力な推進体制とします。

### ■神事や民俗

新しいイベントと地域の行事や民俗との連携を工夫し、賑わいの創出を図ります。

周辺地区の祭り・イベント	
松直し	1月 西郷湾
トンド焼き	1月 今津地区
加茂の百手祭り	3月 加茂那備神社
御客神社祭礼風流	3月 御客神社
隠岐いぐり風祭	4月 総合運動公園
隠岐国分寺蓮華会舞	4月 隠岐国分寺
しげさ踊りパレード	5月 西郷港周辺
隠岐しげさ節全国大会	5月 隠岐島文化会館
隠岐の島ウルトラマラソン	6月 町内全域
宇屋だんじり舞風流	7月 御崎神社周辺
送り盆	8月 西郷港
夏祭り	8月 西郷港周辺
秋祭り	10月 各地区神社



祭りやイベントの起終点となる広場や公園

## 景観 (島全体を代表する景観)

島の農山漁村地区だけでなく、中町・西町・東町など中心市街地もビル型建築は少なく、低層赤瓦の良好な歴史的景観を保持しています。

玄関口であるターミナル周辺地区は、島全体を代表する景観となる必要があります。赤瓦の集落景観地区として整備し、近代化以前の景観の回復を図ります。

### ■切妻屋根の舟小屋群

島の海岸線には舟小屋群が各所にあり、切妻屋根が海に向かっての姿は漁業集落の原型です。

隠岐の島町だけでなく、島根半島から京都府にかけての日本海沿岸など各地で見かけることができます。海から小舟を引き上げる、小屋の間を歩いて海に出入りする・・・という行為に形を与えています。

山陰の海辺の集落を特徴づける赤瓦と舟小屋型住居による景観(港の原風景)を再生します。

### ■自然素材

良質の杉材や「五箇石・小路石」と呼ばれる凝灰質砂岩(グリーンタフ)や隠岐片麻岩など景観を形成する豊富な自然素材を活用します。

凝灰質砂岩は加工が容易で、歩道や室内の床・壁に使用することが出来ます。隠岐片麻岩は硬度があり、コンクリートの骨材として利用されています。車道舗装の骨材や切り石として利用します。

### ■町なみ協定の締結

赤瓦や杉材による良好な景観の保全に向けて、ガイドラインの作成や町なみ協定の締結が必要です。玄関口地区から開始し周辺地区に拡大します。



西郷港の原風景 八尾川の集落景観



屋那の松原の舟小屋群(都万地区)



海に向かう切妻屋根(布施地区)



RC造+木造赤瓦屋根(五箇地区)



グリーンタフの床と壁(五箇地区)

## 防災 (津波にも火災にも強いまち)

### ■津波と水害対策

津波など災害時の受け入れが必要な交流センターは、+2.6m以上に計画します。浸水被害を免れるだけでなく日常の海の眺望も得やすくなります。

### ■避難しやすい屋外空間

屋外空間は、路地・広場・公園・道路・台地と続く避難路のネットワークを形成し、分かりやすいサインなど安心・安全を確保します。

### ■火災対策

計画地の北側一列をRC造の町営住宅とし、大城山の台地につながる防火帯とします。



## 広域連携 (みち・かわ・だいち)

### ■みち

現在美装化がおこなわれている目貫通りや西町通りの交差点などに、石舗装とともにサイン類を充実させ、中心部を一周する歩行者ネットワークを特徴付けます。

### ■かわ

八尾川と宇屋川は季節風から守られた西郷湾のさらに奥・・・という立地により、古くから船の基地でした。「まちの原風景」を保全し、日常の散歩コースや小舟利用の観光のコースに組み込みます。

### ■だいち

海や町を見下ろす台地には多くの社寺が立地し、小さな祠や石灯籠をあちこちで見かけます。船の安全を願って作られたのでしょう。景色の良い風情ある佇まいの保全と活用を行います。

